

野田中学校	重点課題推進校	教科一般・その他
-------	---------	----------

## 1 研究の重点と具体的な取組

### 重点1 対話と対話指導

生徒同士、生徒と教師が課題の解決に向けて考えを聴き合い、訊き合う対話を行うことで、生徒の学びを深め、生徒に考える力をつけさせることを図る。年度の始めに生徒に対して学習のガイダンスを行う。対話の際には、学校で設定した対話の型を用いる。また、校内で作成した対話・振り返りに関する指導の手引きを全教員が持ち、活用する。共通の話形を全校で用いることで、学習活動の円滑化・効率化を図る。

### 重点2 振り返りと振り返り指導

教師が、授業のねらいや理想とする生徒の振り返りを想定し、逆向き設計で授業をデザインする。生徒は単元の終末に学習内容や自らの変容を振り返りに記入する。振り返りを行い、学びを言語化することで、学習内容の定着や、見方・考え方の深まり、および新たな課題の明確化をはかる。学校で設定した振り返りの型を使用し、全校で共通実践を行う。教員はよい例を他の生徒に紹介するなど、適切な指導を行う。

#### 学ぶときの訊き方

- 意味がよくわからない時は  
「どういうことなの？どういう意味なの？」
- 根拠がよくわからない時は  
「なぜそう言えるの？」
- 聴いた内容や言葉が難しい時は  
「もう少し簡単な言葉で教えてくれる？」
- 聴いて理解ができない時は  
「もう一度教えてくれる？」

#### 振り返りの書き方

- 今日は、～について考えました。
- …ということが分かりました。
- はじめは△△と聞いていましたが、◇◇さんの意見を聞いて、◎◎ということに気づきました。
- ○○についても考えたいです。

## 2 取組の検証

### (1) 教員アンケートより（肯定的回答の割合）

「生徒が互いの考えを伝え合い、訊き合えるように、対話指導をすることができた」  
前期 97.1%、後期 96.7%（A評価は2.9ポイント上昇）

「授業の終末で、振り返りを行うことができた」前期 91.5%、後期 90.0%

### (2) 生徒アンケートより（肯定的回答の割合 ※は選択肢から回答）

「分からないことを訊き合うことで、学びが深まりましたか」

前期 94.1%、後期 93.4%（全校平均、以下同様）

※分からないことを訊き合う事でよかったこと

「分からなかったことが分かるようになった」前期 77.9%、後期 85.8%

「自分とは違う考え方や解き方を知ることができた。新しい発見があった」

前期 70.3%、後期 72.8%

「授業のまとめりに振り返りをして、自分の考えの変化や成長、新たな疑問、調べてみたいこと等を書くことが出来ましたか」前期 83.5%、後期 82.6%

※振り返りをするのでよかったこと

「自分がその授業で何を考えたか、考えがどのように変化したか、確認できる」  
前期 29.1%、後期 55.7%

「書くことで気づいたことがあったり、新たな疑問が出たりして、次の学習につながる」  
前期 20.2%、後期 43.3%

### 3 成果と課題

・野田中学校では、主体的・対話的で深い学びをめざして、研究主題を「考える力を高め、学びを深化させる学習指導のあり方を求めて～「対話」「振り返り」の視点から～」としている。「金沢型学習スタイル」を踏まえ、授業の流れを示す「野田中学校 学びのスタイル」設定している。

・「野田中学校 学びのスタイル」では、授業の流れを「学習の見通しを立てる」→「課題に対する自分の考えを持つ」→「他の生徒の意見に触れ、分からないところを訊き合うことで、自らの考えを深める〈対話〉」→「授業の終わりに、課題に対するまとめを行う」→「学習のまとめりごとに、自らの考えの変化、新たな疑問などを書く〈振り返り〉」とし、研究の重点を授業の流れにどのように位置づけるかということを全教員で共通理解して実践にあたった。

野田中学校 学びのスタイル



・各種アンケートはいずれの学年でも良好な結果となった。また、各種アンケートを踏まえた研究推進委員会での協議や、外部講師による指導・助言においても、取り組みの重点が教師・生徒ともに定着していることが確認された。

・課題としては、いかに「対話」や「振り返り」指導の質を高め、生徒の考える力を高め、学びを深化させていくかという点があげられる。振り返りについては、よい例を評価するなど、教師がよく生徒の様子を見取り、適切な指導を行うことでさらに質を高めていくことが期待される。また、取組を年間を通じて継続し「やりきる」ことも課題である。こうした課題を解決するためには、教科部会の充実や課題設定の工夫、各教科の見方・考え方を働かせた学習を目指して授業改善を継続することや、よい例を紹介し合うことも必要であると考えられる。

このような成果と課題を踏まえ、来年度に向けて、共通理解・共通実践を継続し、改善を重ねることで授業改善・学力向上を図っていきたい。